法則、制度と創造性 プロフェッショナルの条件

浅 野 良 裕

マイナンバー制度が動き出しましたが、既にさまざまな問題が発生しているようです。 現代は時代の大きな転換期にあり、制度自体も変わっていかないといけない時期ですが、 これからどのような社会=自然になるかによって、制度もどのようなものが相応しいのか が変わってきます。これまでの制度改革は、もぐらたたき、つぎはぎ的なものが多く抜本 的なものは少なかったのですが、このマイナンバー制度はある意味抜本的なものかもしれ ません。しかし**抜本的な大きな変化**であればあるほど、間違っていた時のリスクも大きく なります。この意味では継続的に慎重な対応が必要でありましょう。そこで、制度とか法 律、規則、法、法則、原則、基準等とは何か? 基本的な問題を考えてみます。

人が生活するとき、人体内の細胞や器官の動き、直立歩行や手の動き等、様々な動きがありますが、これらの動きは**自然法則**とも言われる一定の法則性に従って動きます。これらの動きは、人の生存という目的に沿うように合理的に作られ動いています。

また狩猟や、道具作り、調理等の活動においても、その目的にあった原則や基準での行動を、個人レベル、集団レベルで行ってきたと言えましょう。これらは**DNAレベルでの継承、模倣、教育、新たな創造等**により受け継がれ歴史をつくっていきました。

そして人類が**文字**を使い始めるようになり、これらの原則や基準の一部は、法律という 形で客観的に存在するようになりました。文字という形で表現されていない音声言語の時 には、人間関係や行為は直接的なため、これらの原則や法はそれなりに理解され規範とな ってきましたが、集団が大きくなり、**言語が文字となり外部の客観的な存在**となることに より、理解していなかったり、知らない人も出てきました。

自然環境や身体の自然法則に反した場合には、災害や病気として現れ、法律に反した場合は、犯罪として罰せられます。

集団が大きくなり、国家が作られ、国際化し、グローバル化、情報量も巨大になることにより、社会は複雑化し、法律も膨大なものになってきました。国内の法律でも全てを知っている人はいないでしょうが、法律は知らなくても違反すれば罰せられます。

従ってこのような時代における、**法律や社会システム、また人の考え方・在り方**はこれ までの時代とは違ったものになる必要があるでしょう。

仕事における規則やルール、法則を考えるとき、自分の行っている作業だけを見て仕事 している人と、業務全体の目的や仕組み・プロセスを見て、その中での自分の業務の役割 を考えてする人とでは、仕事の質や効率はまったく違うはずです。後者の場合、業務改善 や新たな創造も可能で、成果や個人の成長度の差も歴然としているはずです。

これは1企業の中の1業務プロセスに関してですが、この**仕事の本質的な方法**を、他の業務や企業全体、業界、地域、国家、世界等に広げていくことが出来れば、そして皆がこのような方法を理解し実行できれば、合理的で自然の道理にかない、人々が理解し行動できるような、法律やシステムが出来るのではないでしょうか。相似形、相似象という言葉がありますが、鍵はそのような構造の基本となる法則は何かということです。